

人形浄瑠璃

# 文楽

二〇二〇年十月 地方公演

主催 文楽協会 後援 文化庁「助成」芸術文化振興基金・朝日新聞文化財団



昼の部

二人三番叟

摂州合邦辻

合邦住家の段

夜の部

本朝廿四孝

十種香の段

奥庭狐火の段

釣女

榎茂都陸平II振付

10月15日[木] 13:30開演 / 18:00開演

昼の部

夜の部

※開場は開演の30分前 ※昼の部・夜の部とも字幕付

◎チケット料金(全席指定・税込)

一般 4,500円 昼・夜通し券 5,500円

U25 2,200円 高校生以下 1,000円

※昼・夜通し券は、プラットチケットセンターのみ扱い。

※U25(25歳以下)・高校生以下は、一般発売日からプラットチケットセンターにて取扱い。

※未就学児のご入場はご遠慮いただきます。

※車椅子でお越しの方は問合先までご連絡ください。

主催:公益財団法人豊橋文化振興財団 共催:豊橋市 後援:豊橋市教育委員会 特別協賛:sal&サーラグループ

◎チケット発売日(10:00より受付)

会員先行:8/29[土](プラットフレンズ・財団維持会員) 一般発売:9/5[土]

※感染予防のため各発売初日の窓口販売はなし。翌日以降残席がある場合は窓口販売あり。

※感染予防対策として収容人数を制限し一定の距離を空けた座席配置にする可能性があるため、

連席でご用意いたしかねる場合がございます。

◎チケット取扱い

■プラットチケットセンター [窓口・電話] TEL:0532-39-3090(10:00~19:00休館日を除く)

[オンライン] <http://toyohashi-at.jp>(24時間受付・要事前登録)

■チケットぴあ 0570-02-9999(Pコード:502-528) <https://t.pia.jp>

◎お問合せ プラットチケットセンター 0532-39-3090(休館日を除く10:00~19:00)

◎会場 穂の国とよはし芸術劇場 PLAT 主ホール  
TOYOHASHI ARTS THEATRE MAIN HALL  
〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123 <http://toyohashi-at.jp>  
TEL:0532-39-8810 FAX:0532-55-8192 <休館日>毎月第3月曜日(祝日の場合は翌平日)



芸術文化振興基金助成事業

©青木信二

# 二〇二〇年十月 地方公演 配役表

## 昼の部

解説 (あらすじを中心に)

豊竹 巨太夫

### 二人三番叟

豊竹 藤太夫  
竹本 津國太夫  
豊竹 希太夫  
鶴澤 清志郎  
鶴澤 友之助  
鶴澤 清 公  
鶴澤 清 方

三番叟 吉田 玉 誉  
三番叟 吉田 簀 太郎

(人形役割)

### 摂州合邦辻

#### 合邦住家の段

中 豊竹 巨太夫  
鶴澤 清 尨  
前 豊竹 呂勢太夫  
鶴澤 清 治  
後 豊竹 呂太夫  
鶴澤 清 介

合邦道心 吉田 玉 志  
合邦女房 桐竹 勘 壽  
玉手御前 桐竹 勘 十郎  
奴入平 吉田 文 哉  
浅香姫 吉田 清 五郎  
高安徳丸 吉田 簀 一郎  
講中 大 ぜ い

(人形役割)

翌月大明蔵社中

## 夜の部

解説 (あらすじを中心に)

豊竹 希太夫

### 本朝廿四孝

#### 十種香の段

竹本 鏊太夫  
鶴澤 藤 蔵

花道り樂作 吉田 文 司  
腰元 濡衣 吉田 勘 彌

(人形役割)

#### 奥庭狐火の段

豊竹 希太夫  
鶴澤 清志郎  
ツレ 鶴澤 友之助  
琴 鶴澤 清 允

八重垣姫 豊松 清 十郎  
長尾 謙信 吉田 玉 輝  
白須賀 六郎 桐竹 勘 次郎  
原 小文治 桐竹 亀 次

### 釣女

大 名 豊竹 藤太夫  
大 名 竹本 津國太夫  
美 女 豊竹 巨太夫  
醜 女 竹本 三輪太夫  
鶴澤 清 尨  
鶴澤 清 公  
鶴澤 清 允

大 名 吉田 玉 誉  
太郎冠者 吉田 勘 市  
美 女 桐竹 紋 吉  
醜 女 吉田 簀 紫郎

(人形役割)

翌月大明蔵社中

◎子振表記となります。船によっては安藝が見えにくい場合がございますので、あらかじめご了承ください。  
◎出演者の服装やその他やむを得ない事情により、代名もしくは演目を変更し上演する場合がございます。  
◎あらかじめご了承ください。  
◎開演中の写真撮影・録音録音および携帯電話・スマートフォン等の使用は固くお断りいたします。

観劇当日に風邪のような症状のある方、体調のすぐれないお客様はご無理なさらず来場をお控えください。  
観劇時は咳エチケットの励行ならびに、手洗い、うがいの徹底などの感染症対策にご協力のほどお願い申し上げます。

### 二人三番叟

天下泰平・五穀豊穡を祈る能「翁」をもとにした『寿式三番叟』は、お祝いことに際して上演されるおめでたい演目。本作は、その後半、二人の三番叟が、袖を振つて舞い、力強く足踏みをする「孫ノ段」と鈴を手に種まきのしぐさをしながら四方をめぐる「鈴ノ段」とを独立させたものです。太夫、三味線、人形いずれもが躍動感にあふれ、足遣いが踏む足拍子やシャンシャンと鳴り響く鈴の音もリズムカルで心地よい、楽しい作品です。

### 摂州合邦辻 合邦住家の段

安永2年(1773)、大坂の北堀江市ノ側芝居で初演された、菅専助・若竹苗躬合作の二巻の時代物。継母の呪いにより病となって四天王寺(大阪市)に捨てられ、恋人の尽力で救われる『しんとく丸』、継母の恋を拒んで家を出、自ら命を捨てる『あいの若』これら説経で知られた物語を題材とし、お家乗っ取りの陰謀を絡めてあります。

若くして老主君の後妻に迎えられた、もと腰元の玉手は、年の近い継子俊徳丸に恋し、突如として難病にかかった俊徳丸が家督相続を諦めて館を去るや、あとを追って家出。行方を探しあぐねて立ち寄った両親の家で、許婚の浅香姫とともに匿われていた俊徳丸を見つけると、恋心をあらわにして縋りつき、邪魔な姫に暴行。また、俊徳丸の病は、姫に愛想尽かしをさせようとして、玉手が毒を盛ったことも判明。

曲がつたこの大嫌いな父合邦は、非道な娘を許せず激怒し、涙ながらに刺し殺します。ところが、死を前に玉手が明かしたのは、思いも寄らない真実。恋も毒もすべては、継母として大切にすべき継子の命を救うため。

玉手が見せる邪な恋と嫉妬、合邦の怒りと悲しみ、心情の激しさに圧倒される人気演目です。

### 本朝廿四孝 十種香の段・奥庭狐火の段

将軍足利義晴暗殺犯は誰―武田信玄、長尾(上杉)謙信、斎藤道三、山本勘助らが絡む、近松半二ほか合作の五段の時代物で、明和3年(1766)、竹本座初演。今回は、長野県の諏訪湖畔に設定された謙信の館を舞台とする、美しさあふれる四段目をご覧ください。

武田家の重宝諏訪法性の兜を謙信が借りたまま返さず、両家は敵対。和睦のため、信玄の息子勝頼と謙信の娘八重垣姫が許婚に。しかし、その後勝頼は切腹。が、実は生きていて、暗殺犯を見つけ出すべく、花作りの簀作に姿を変え、謙信の館へ潜入しました。

絵姿を前にとぎ許婚を恋慕い、泣き暮らしていた姫は、絵姿そっくりの簀作にびっくり。恋しさを抑えられず、簀作に縋りつき、ついに勝頼その人と知って大喜びしますが、簀作の正体を見破っていた謙信が、勝頼を塩尻へ行かせ、あとから討手を一。

何としても、討手より先に追いつき大切な許婚を救わなければ、とはいえず、凍った湖に船は出せず、陸路では間にあわず、諏訪明神に頼るほかにないと、姫は諏訪法性の兜を前に一心に祈願。すると、明神のお使いである白狐の姿が。水の上を狐より先に渡れば溺れるとのことですが、狐が守護する兜があれば大丈夫なはず。姫は勝頼に返すべき兜を手に、湖を渡ることに。

姫の胸のとぎめきが聞こえるような、優美な「十種香・諏訪湖の「御神渡り」を取り込んだ「奥庭狐火」では、狐が登場、早替わりもあり、舞台は熱気に包まれます。

### 釣女

狂言「釣針」をもとに明治時代に作られ、のちに歌舞伎舞踊となった常磐津の作品を、義大夫に取り入れたもので、昭和11年(1936)、四ツ橋文楽座で初演。えびす信仰の中心地、西宮神社(兵庫県西宮市)を舞台とした、明るく、愉快な喜劇です。

西の宮の恵比須様に妻を授けてほしいと祈願した大名と太郎冠者。釣好きな恵比須様のお告げは、釣竿で妻を釣れというもの。大名が釣り上げたのは、小野小町か楊貴妃かという絶世の美女。さっそく祝言をあげ仲睦まじい二人。その様子に気も焦り、大急ぎで釣竿を手にした太郎冠者は、針先について来た女性を見て、大はしゃぎ。変わらぬ愛を誓ってから、相手の顔を見ると…。